非常災害時の後方支援の役割について

2024年3月11日
福島支店地域共創本部
総務広報　樺山

本日お話すること

1. 能登半島地震発生～応援派遣までの流れ

2. 能登半島地震応援での後方支援活動内容

3. 現地に行って・見て感じたこと

4. 過去の後方支援経験について

5. 能登半島応援を踏まえて改善が必要と思ったこと

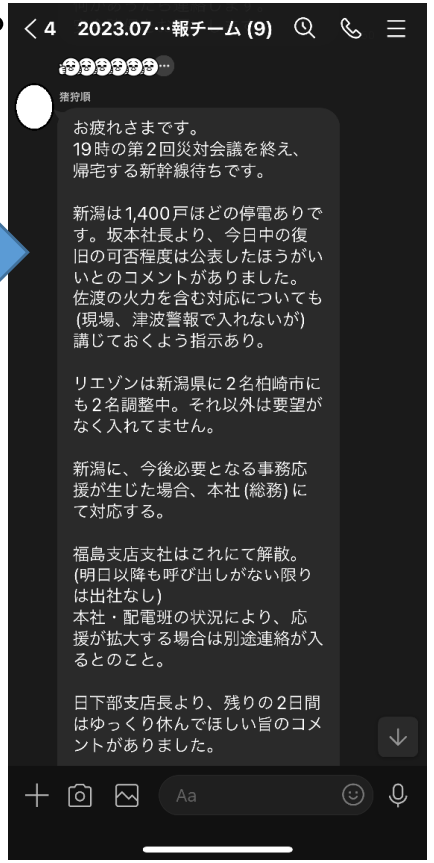
6. これまでの後方支援経験を踏まえて伝えたいこと

1．能登半島地震発生～応援派遣までの流れ（1）

■２０２４年１月１日１６：１０
石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6，最大震度7の地震が発生

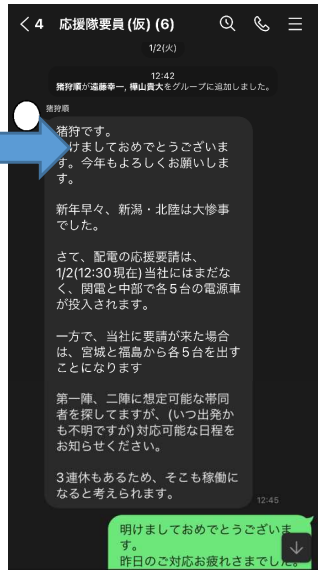
《１月１日》

- 地震発生時は山形県鶴岡市の実家で家族団らん中。
- 実家が海沿いであり，山形県沖に津波警報が発令されたため高台へ避難。
- 安否確認アプリへ情報を登録，LINEの総務広報Gへも自身の状況を報告。
- 地域の避難所が開設されたが，実家より海に近い場所であったため，実家へ帰宅。
- 帰宅後は，TVニュース，ネットニュース等にて情報を収集。
- 適宜，出社している上司より災対会議の状況等をLINEで受信。
  ⇒現地映像や災対会議の情報より「応援隊派遣がある」と判断



《１月２日》

- 上司よりLINEにて第一陣第二陣への出動可否の確認有。
  ⇒休み明けの各種行事や業務調整可否を頭で整理



※私自身は本連絡により後方支援派遣の「心構え」が出来た。

１．能登半島地震発生～応援派遣までの流れ（２）

《１月４日》

・上司が第二陣応援隊の調整に入ったことから，「いつでもいける。早めのほうがいい」と伝え，第二陣「福島電源車班」の後方支援に決定。
・上司より「後方支援に女性が派遣可能かどうかという観点でも見てきてほしい」と指示有。
・４日，５日でチーム内の業務調整を図り，バックアップ体制を構築いただいた。





《１月７日》

８時３０分：福島支店を出発
１０時３０分：阿賀野川SA集合
１１時４０分：阿賀野川SA出発
１６時５０分：ホテル日航金沢到着
１７時２０分：第一陣後方支援と一緒に
弁当配膳，ホテルチェックイン対応
１９時００分：第二陣電源車班打ち合わせ
１９時３０分：第一陣電源車班後方支援隊と打ち合わせ
２０時００分：一日目対応終了



１月８日（二日目）から本格稼働

２．能登半島地震応援での後方支援活動内容

■今回の能登半島地震応援での主な活動内容は以下のとおり

１．現地調達不可品の運搬（初日のみ：福島⇒ホテル）

２．電源車班全体での打ち合わせ（一日２回程度）

３．３食分の食料調達・拠点場所（穴水町）への運搬

４．現地の写真撮影（会社SNS用）

５．金銭管理

６．一日の対応内容記録







【１月８日（月・祝）】
７：４０　電源班打ち合わせ開始
昼食の準備等開始
８：００　金沢駅　到着
本日は気温が低く、雪も降っていることから、温かい弁当が良いと判断し、
加熱式駅弁（ソースカツ丼）を調達
８：３０　１００満ボルト（電源車拠点）へ出発
１２：３０　１００満ボルト　到着
※交通状況の関係で相当な時間を要する
１２：４０　昼食配膳開始
作業員からは「温かい弁当で大変ありがたい」とのこと
１３：５０　本日夜・明日朝用の食事手配のため、ホテル方面へ出発
出発前、成田課長より、宮城支社が電源車接続している関係で、福島支社も
交代要員に入ってほしい旨連絡があったとのこと。対応が決まり次第、連
絡をいただくこととした。
１６：００　イオンモールかほく　到着
お茶、味噌汁、おにぎり、パンを購入
夜分については、「本家かまどや」へ弁当を注文
※電源車班は宮城支社稲島とあわせて対応することとなった。
１月８日（月）２３：００～７：００　４名稼働
１月９日（火）２３：００～７：００　４名稼働
１７：００　ホテル日航金沢　到着
一旦購入品を降ろし、「本家かまどや」へ
１７：３０　本家かまどや　到着　弁当受け取り
１８：００　ホテル日航金沢　到着
弁当配膳他対応
１９：００　成田課長と打ち合わせ実施
１９：４５　２日目対応終了
※翌日以降の食事準備
１月９日（火）
・昼食時機組１２個＋夜電源車対応４個
・夜食１２個＋翌日朝食１２個
１月１０日（水）

3．現地に行って・見て感じたこと

・到着した日（１月７日），宿泊場所ホテル日航金沢にて被災地域の方とエレベーターでご一緒になった際，私たちの作業服を見て「能登をよろしくお願いします。」とおっしゃり，頭を下げられた。

・各応援隊車両（自衛隊，警察，消防，救急，県・市町村）により，大規模な交通渋滞が発生し，地元の方々の交通に影響が出ていたが，文句一つ言わず，応援に来ている方々へ頭を下げていた。



⇒被災された方々は自分自身が大変な状況にも関わらず，労いや感謝の言葉をかけている。
被災地の方々のために，自分が出来ることを精一杯に。
実際に作業にあたる配電マンの皆さんが少しでも働きやすく。



⇒大規模な災害が発生した際，いち早く被災地復興に向けた業務に携わることが出来る（後方支援は間接的だが）。
これはライフラインを担っている「東北電力グループ」だから出来ること。あらためてライフラインの重要性や自分が電力の社員であることへの「誇り」を感じた。

4．過去の後方支援経験について（1）

■２０１１年　３月　東日本大震災（所属：山形営業所総務課）

- 石巻方面（１回目）と塩釜方面（２回目）へ配電帯同後方支援として派遣。
- 石巻方面は発災後１週間のタイミングで現地入り。設備改修班の後方支援として主に食料の配送，宿舎対応等を実施。当時拠点としてお借りしていた場所のトイレ掃除等も実施。
- 塩釜方面は発災後およそ１ヶ月後に現地入り，送電対応班の後方支援として主に食料の配送，宿舎対応，計器の運搬等を実施。

・当時は，個人携帯はガラケー，モバイルパソコン・社給携帯等は無く，情報取りや対応記録を残すことがほとんど出来ない状態。
・石巻方面での応援では，地元の方から野菜（きゅうり）を差し入れていただいた。

■２０１８年　９月　北海道胆振東部地震（所属：宮城支店総務広報）

- 釧路へ配電帯同後方支援（第二陣）として派遣。
- 電源車班の後方支援として主に食料の配送，宿舎部屋割の調整等を実施。
- 設備被害はほとんどなく，電源車接続への待機が長かった（実際は接続なし）。

4．過去の後方支援経験について（2）

■２０２２年１２月　新潟豪雪災害（所属：福島支店総務広報）

- 阿賀町方面への配電帯同後方支援（第一陣）として派遣。
- 月曜日出社時に上司より電話があり「今日から後方支援に行けるか」と確認され，「大丈夫」と回答。一旦出社後，自宅へ戻り荷物を準備し現地へ出発。
- 後方支援内容としては，食料調達・各作業場所への配達，宿舎の部屋割・チェックイン対応，拠点場所との交渉等を実施。
- 個別に依頼を受け，ＳＮＳ用の作業現場写真を撮影し，本社へ送付。配電の方も非常に協力的で，作業場所に近いところから写真・動画を撮っていただいた。









・これまでの後方支援対応の中で，一番大変であり，さまざま学ぶことができた応援であったと感じる。
・第一陣ということもあり，作業員人数が錯綜し，部屋数と人数が合わなかったり，福島隊の宿舎場所に別の部隊の方が来たりと，ホテル側との調整が深夜までかかることも。
・後方支援班として一緒の方が，支社安全主査であり，自身の配電部隊として各種応援対応をしている経験から，様々なアドバイスをいただいた。（作業員の方は雪上作業のため，目にダメージを受ける。就寝時用にホットアイマスクを準備等）

5．能登半島応援を踏まえて改善が必要と思ったこと

■簡易トイレの備蓄（見えないようにするための囲いも）

⇒第一陣は仮設・簡易トイレがほとんどなく非常に大変だったと聞いている。トイレ外で用を足したり，現地調達になると，被災地に迷惑をかけてしまうことにも繋がることから，非常食同様に備蓄が必要。

■各隊の後方支援班の対応状況や物資状況等を把握・グリップする体制の早期構築

⇒現地への応援は，宮城２班・福島２班が入っており，後方支援班はそれぞれが帯同している配電班の班長指示に従い対応しているが，一緒に対応したほうが安全で効率的な事案もあるため必要と感じた。（あくまで指揮命令系統は配電班長の指揮下）

■温め用の防災アイテム等の準備

⇒移動が大変な状況もあり，金沢で購入した弁当が現地（穴水）に運ぶ間に冷たくなってしまう。現地で作業している方々へ温かい食事をとっていただくためにも必要。



■普段から最悪のケースを想定した備えや訓練の実施

⇒今回は地震災害への対応であったが，複合災害（地震＋台風・豪雪など）だった場合は全く別の対応が必要となる可能性もあるため。

■対応した配電の方々一人ひとりへの後方支援の改善点や要望などの聞き取り

⇒後方支援対応の完成形は存在しないが，ブラッシュアップは必要なため。

◆会社が変化していく中でも，災害対応への姿勢は変えてはならないもの（ＤＮＡ）

⇒分社化や組織整備等，会社が目まぐるしく変化している中で，どこか「災害対応は技術系（ＮＷ）の仕事」と思っていないか。過去に数々の震災を乗り越えてきた東北電力グループだからこそ発揮できる力があると考える。震災対応を他人事とは思わず，グループ全体の仕事，さらには「自分事」として捉えていくことが重要。

◆現地応援に行けるのは自身の職場を守っている方々が居るから

⇒後方支援として何回か被災地へ行かせていただいているが，毎回職場の皆さまから温かく送り出していただいている。また，対応期間中の日常業務は他の方に対応いただき，災害応援による滞りは発生したことがない。災害応援は現地に行っている人だけではなく送り出していただいた職場のバックアップも含めて成り立っているもの。